

学習院大学身体表象文化学会2020年度第1回例会

第8回ゾンビ映画研究会



対象作品：『死霊のえじき (Day of the Dead) 』

ジョージ・A・ロメロ監督、1985年、米、96分

概要

ロメロ・ゾンビがピッツバーグ（ペンシルヴァニア州）の共同墓地から起き上がりスクリーン上を歩き始めたのは1968年のことであった。このロメロ・ゾンビ映画第一作『ナイト・オブ・ザ・リビング・デッド』はベトナム戦争のさなか、かつキング牧師が暗殺された直後に公開され、そのような時代のアメリカの雰囲気いきいきと映し出した。約10年後に撮られた第二作『ゾンビ』（1979年）では、ピッツバーグの郊外（フィラデルフィア州）にあるショッピング・モールへと舞台が移され、人間とゾンビ、そしてマネキンが等価にモンタージュされるなかで、そこへ集うアメリカ人の消費生活が批判された。第三作『死霊のえじき』（1985年）の舞台はフロリダ州の地下倉庫。地上のそこかしこをゾンビが跋扈するなか、生き残ったわずかな人類が強権を振るう軍人の下で暮らしている。あたかもスクリーンのこちら側で

は、第40代アメリカ合衆国大統領ロナルド・レーガンが軍事の拡大を断行していた。

この度のゾンビ映画研究会は、ジョージ・A・ロメロのゾンビ映画初期三部作の真打(トリ)をかざる『死霊のえじき』を対象とする。まず上記のような同時代背景を踏まえた上で会員の岡田尚文（映画史、表象文化論）、田原康夫（ジェンダー論）、中里昌平（演劇論）の三氏から当該作品に関する解説をいただき、その上でこれまで当研究会が扱ってきたロメロ・ゾンビ初期三部作を多角的な観点から総括することとしたい。

日時 2020/9/13（日）14:00~15:30

会場 ZOOM

申込 guscscvr1@gmail.com

参加を希望される方は上記アドレスにご連絡ください。折り返しZOOMのURLをご案内いたします。なるべく作品を鑑賞のうへでご参加ください。